

一人で生きていくのが辛い時は
助けてもらったっていいじゃない。人間だもの。

国に助けを求めることができる権利が社会権

俺は俺の生き方を貫くぜ！とミュージシャンを目指した君。見事プロデビューしてCDもバカ売れ（笑）人生の絶頂期を迎える。しかあし！人生山あり谷あり、そんな君に突然「声が出なくなる」病気が襲う。それでもしばらくはこれまで出したCDの売り上げで暮らすことはできたが、次第に売り上げも減り、君の手元に残ったお金はわずか、、、(;°(エ)°)

そんな時、君は誰に助けを求める？

"国民の人権を大事にする"って事は、国民がやりたいように自由を与えることもそうだけど、怪我や病気など「どうしようもなくなった時」に手を差し伸べることも人権を守ることになると考えるよ。この「ピンチの時に援助してあげる権利」を

社会権

と言う。

ここで"ピンチの状態"になった人の事を『社会的弱者』と言うと覚えておこう。社会権とは社会的（経済的）弱者を保護する権利なんだ。どうして保護しなければならないの？ほっとけばいいじゃん、という考えもある。でも、今から紹介する『社会的弱者』は

誰にでもそうなる可能性がある！

だから、"**お互い様**"の気持ちで助け合おうと言うのが、今の日本のシステムなんだ。ピンチじゃ無い時は、今ピンチの人を助けて、自分がピンチになったら他のみんなに助けてもらう。これが社会権の仕組みなんだ。じゃあピンチの時ってどういう時なのかな？具体的に見てみよう！